



# 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

第6号

2002. 12.25

## ニュースレター

### CONTENTS

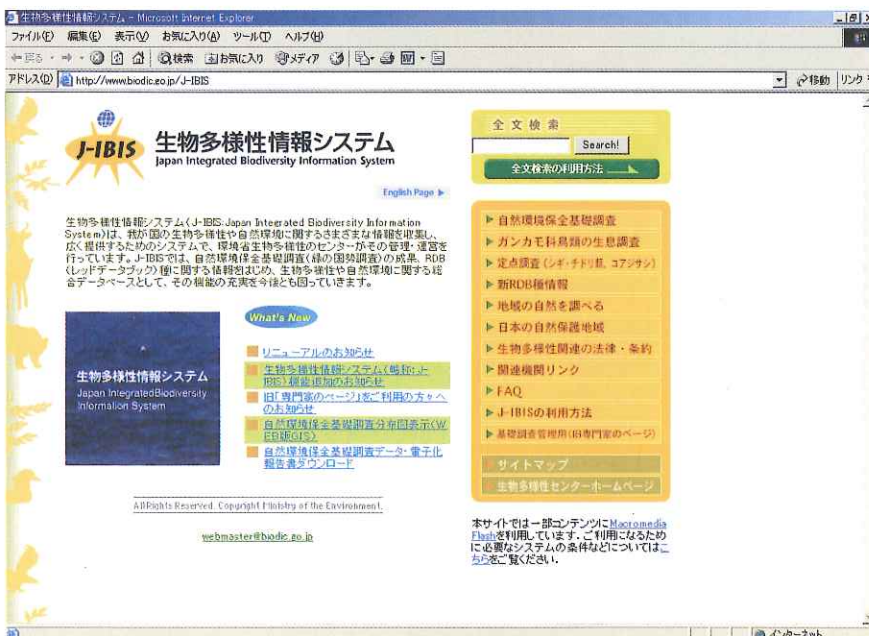
|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| 生物多様性情報システム (J-IBIS) をご存知ですか？ | 1~2 |
| 生物多様性センターイベント「生物多様性まつり」開催！    | 3   |
| 自然環境保全基礎調査の紹介 巨樹・巨木林調査        | 4   |
| みんなの広場                        | 5   |
| 人の動き、センターの動き                  | 6   |

## 生物多様性情報システム ( J-IBIS ) をご存知ですか？

環境省生物多様性センターでは、1998年(平成10年)6月のセンター開所の直後より「生物多様性情報システム(Japan Integrated Biodiversity Information System:略称J-IBIS)」というホームページを公開しています。

このホームページは、生物多様性センターの行っている「自然環境保全基礎調査(通称:緑の国勢調査)」の結果を始めとして、日本の自然環境、生物多様性に関する情報を収集・管理・提供するために設けられたシステムです。

(次のページへ)



生物多様性情報システム (J-IBIS) トップページ

<http://www.biodic.go.jp/J-IBIS>







## 生物多様性センターイベント「生物多様性まつり」開催！

2002年8月18日、環境省 生物多様性センターで生物多様性まつりが開催されました。このイベントは、小学生を中心に子供から大人まで、生物多様性や生物多様性センターについての理解を深めてもらおうと、毎年開催しているものです。当日は雨が降る中、200人以上の来館者があり、にぎわいを見せました。イベントでは、標本作製講習会(昆虫、植物)、剥製特別展示、自然観察会、中川雄三氏スライドショー、館内オリエンテーリングなどを行いました。

標本作製講習会は予約受付開始後すぐに定員を越えるほどの人気を見せ、当日のキャンセル待ちが出るほどでした。参加者は標本作成の意味やルールなどを講師から説明を受け作製に挑みました。講習修了者には認定証が手渡されました。標本は夏休みの自由課題になった？



剥製特別展示では、普段見ることのできないセンターの特別収蔵庫内のタンチョウやイリオモテヤマネコなどの剥製を紹介しました。また特別収蔵庫に行くまでの間に、パネル等により剥製の作り方や剥製の収集の意味も解説しました。剥製の見方が少し変わったかもしれませんね。

自然観察会は、お隣の山梨県環境科学センターの協力を得て実施されました。小雨の降る中、合羽を着て、ちょっとした探検気分(?)で自然観察会が行われました。センター周辺の自然の成り立ちや富士山の歴史、現在についてガイドが行われ、時間の流れとともに自然に森の樹種が移り変わり、自然環境が変化すること、富士山が作り出す溶岩樹型の不思議な形がどのように生まれたのかについて解説がありました。



中川雄三氏スライドショーでは、地元富士吉田市在住の動物写真家である中川氏により、ご自身が撮影された写真スライドを使用して、富士山やその近くで生息するコウモリの生態や自然環境について説明がありました。超満員の盛況振りでした。

館内オリエンテーリングでは、ズック(生物多様性センターのマスコットキャラクター)(図1)の足跡をたどりながら各所に設置された問題を解くと、生物多様性とは何か、自然環境の保護について何をすればいいのかが理解できるしくみになっていました。

皆さん熱心にチャレンジしてくれて、全問正解の人も多く、これが環境保全について考えるきっかけになれば幸いです。



富士山で回収されたゴミ



(図1)

イベント開催にあたり、ご支援くださった皆様、ご来館者の皆様の協力でセンターイベントが成功したことに感謝いたします。



## 自然環境保全基礎調査の紹介

### 巨樹・巨木林調査

#### ■ 1. 調査の目的

～そばにいてだけで圧倒されるような、大きな木を見上げたことはありませんか？～

悠久の時によって育まれた巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要です。巨樹・巨木林調査はその全国的な実態を把握することを目的に実施されました。

#### ■ 2. 調査の内容と方法

～「大きな木」を定義することは、難しいですね～

環境省では、原則として地上から1.3mの高さでの幹周りが3m以上の木を調査対象とし、幹周り3m以上に育ちにくい樹種（ツバキ、マユミなど）については、3m未満でも調査対象としました。第6回基礎調査では第4回基礎調査で確認された巨木を対象に追跡調査を行い、また第4回基礎調査以降新たに確認された巨木を対象に新規調査を実施しました。

現地調査では、以下の項目が調べられました。

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| (1)基礎的項目 位置、樹齢、樹種、幹周、樹高等 | (2)保護の項目 保護制度指定等   |
| (3)生態的項目 周囲の状況、健全度等      | (4)人文的項目 信仰、故事・伝承等 |

#### ■ 3. 調査結果

～まだまだ、未発見の巨樹・巨木林が、きっとあります～今ある巨木も大事に残そう～

第4回基礎調査では、単木、樹林、並木を合わせて、全国で55,798本の巨木の幹周が実測され報告されました。巨木の周囲の状況は樹林がもっとも多く、そのうち小面積ながらまとまった自然環境を保持する社叢林が、巨木の生育環境として重要な役割を果していることが示されました。

第6回基礎調査では、1,661市町村（回答率51%）と全国巨樹・巨木林の会会員などから回答があり、10,367本の巨木が新たに報告される一方、枯死・伐採等により失われた巨木が1,660本報告され、調査対象となった巨木は全国で64,479本となりました。第6回基礎調査では、前回調査（第4回基礎調査）では報告の少なかった山岳部・離島から数多くの報告があり、エノキ（徳島県一宇村）、スダジイ（東京都御蔵島村）等の樹種で国内最大級の巨木が確認されましたが、なお未発見の巨木が多数存在することも推定されています。また、前回調査と同様に、その所有形態、信仰、名称等から人との関わりの中で残ってきた巨木が多いことが示されました。



巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書表紙より（上半分）

#### 第6回自然環境保全基礎調査

#### 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書



編集：環境省自然環境局生物多様性センター

発行：財務省印刷局

定価：1,300円（税別）

ISBNコード：ISBN4-17-319210-X

発行年月：2002/8 A4版 130p

～お近くの官公物出版書を扱っている書店でご注文ください～



# みんなの広場



## センター来館者からのご意見

とても  
部屋の中が  
あつく感じました。  
エアコンの無駄では  
ないでしょうか。  
Save Energy!

2回目です。この前来た時より変わってビックリしました。とてもわかりやすくて良かったです。富士山の周りにいろんな生き物(きんねん)が住んでるなんて知りませんでした。私は静岡県民で昆虫好きのうちの一人です。昆虫のちょうが大好きで夏にはよくオオムラサキを山なし県には来てました。でも最近はそのオオムラサキの居る杉の木が少なくなってきています。地球は今動植物の減少が激しく人間が地球のことをあまり考えていなかったのだと思います。だからこれから自分自身が地球を大切にしたいし、それを世界中の人に広めていきたいです。またこの生物多様性センターに来たいです。

この建物は、太陽光や夜間電力を利用した省エネ設計になってるんだよ。だから、日当たりの良い日には暑く感じられるかもしれないね。(ズック)

地球のことを一生懸命に考えてくれてありがとう！またぜひ生物多様性センターに来てね。(ズック)



2002.9.20 北岳より朝日

## 富士北ろくの風物



多様性センターとお隣の山梨県環境科学研究所をつなぐ遊歩道の途中で、こんな黒っぽい実をつけた木を発見。よ〜く見ると「葉の上に実が付いている!？」ここに実があるということは、花も咲いていたはず。何とも不思議なこの木。6〜7月に花をつけ、8〜9月に実をつけます。生息地は野山。自然の中にはこんな不思議なものが沢山。皆さんもさがしてみたいはかがでしょうか？

さて、右の写真はある小学生がこの葉を面白がって、遊んでいる様子です。彼にとって、この葉はカッコいいヒーローの目に見えたのでしょうか。「ウルトラマンの目」。皆さんは何に見えますか???

実はこの植物「ハナイカダ」という正式名称があります。「葉=いかだ」「花(実)=船頭さん」に見えたのでしょうか。分かりやすいので、すぐに覚えてしまいますね。またある地域では「ヨメノナミダ(嫁の涙)」とも呼ばれるそうです。「涙が葉にポトリ・・・」こんな感じでしょうか?何とも切ない情景が思い浮かびます。

こんな風に植物にニックネームをつけたり、様々なものに見立てたりするのも面白いかもしれません。ポイントは面白がることです。





## 人の動き 2002年7月～12月

|       |        |                   |           |
|-------|--------|-------------------|-----------|
| 〈転出〉  |        |                   |           |
| センター長 | 笹岡 達男  | (自然環境局国立公園課長へ)    | 【7月30日付け】 |
| 調査科員  | 曾我部 倫子 | (自然環境局野生生物課計画係長へ) | 【7月1日付け】  |
| 事務補佐員 | 渡辺 みこ  | (退職)              | 【9月30日付け】 |
| 〈転入〉  |        |                   |           |
| センター長 | 北沢 克巳  | (自然環境局総務課長補佐から)   | 【7月30日付け】 |
| 調査科員  | 並木 光行  | (北関東地区自然保護事務所から)  | 【7月1日付け】  |
| 事務補佐員 | 小林 真知子 | (新規採用)            | 【10月1日付け】 |

### 生物多様性センター長が変わりました！

初めまして。7月30日付けで生物多様性センター長に任命されました北沢です。当センターの基礎を築かれた笹岡・前センター長（現、国立公園課長）の後をうけ、微力ながら精一杯努めていきたいと考えております。変わらぬご指導、ご支援いただきますようお願いいたします。

さて、生物多様性センターはご存知のとおり「調査」「情報」「標本資料」「普及啓発」を四本柱として、人と情報のネットワークづくりを進めている施設です。新・生物多様性国家戦略にもあるとおり、自然環境データはあらゆる施策の基本になるだけでなく、一人一人の行動を考える上でも大切なものです。当センターの設立趣旨を十分発揮できるように、これら四本柱をうまく融合、連携させ、バランスのとれた業務を展開したいと考えています。

行政は広い意味でのサービス業です。もちろん一人だけに対するものではありませんが、個人個人に対する積み重ねであることは言うまでもありません。米国の国立公園管理局は National Park Service といいます。日本語のサービスとは語感が違うのかもしれませんが、良いものをより良い形で提供することを忘れずに心がけていきたいと考えています。

最後に、地の利を活かして来年こそは「一目からの富士登山」、が当面の私的な目標です。まずは東京勤務で鈍った体力を回復することから始めています。ご声援を。



生物多様性センター長 北沢 克巳

## センターの動き 2002年6月～12月

|           |                |            |  |
|-----------|----------------|------------|--|
| 6/2       | ほたるサミット        | 9/12       | 自然環境保全審議会野生生物部会                          |
| 6/11      | 全国巨樹・巨木林の会理事会  | 9/21～9/22  | 巨樹・巨木フォーラム                               |
| 6/13      | 田んぼの生きもの調査研修会  | 10/2～11/22 | JICA 生物多様性システム研修                         |
| 6/19      | 国際湖沼環境委員会      | 10/25      | ガンカモ検討会                                  |
| 7/23      | 中央環境審議会野生生物部会  | 11/12      | 植生調査中部ブロック調査会議を皮切りに全国8ブロックで順次ブロック調査会議を開催 |
| 8/5～8/9   | 山梨大学生研修受入れ     | 11/26      | 第6回自然環境保全基礎調査(哺乳類 分布調査)検討会               |
| 8/9       | 中央環境審議会野生生物部会  | 12/5～12/6  | NORNAC 札幌にて開催                            |
| 8/12～8/16 | 関西学院大学生研修受入れ   |            |  |
| 8/18      | 生物多様性まつり       |            |  |
| 8/30      | 第4回野生鳥獣保護管理検討会 |            |  |



発行：環境省自然環境局生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田丸尾 5597-1

電話：0555-72-6031

FAX：0555-72-6032

URL <http://www.biodic.go.jp/>